

『女性の視点から避難所を考えませんか?』第17回 会議録

- ◆開催日 平成29年2月23日(木) 10:00~12:10
- ◆場所 四谷ひろば B館1階 多世代交流サロン
- ◆参加者 危機管理課担当1名、四谷特別出張所2名(担当・震災経験者)
四谷ひろば避難所協議会会長、四谷四丁目町会副会長
地域住民14名 計19名

10:00 開会

今日は、震災当時、岩手県宮古市の避難所で実際にボランティア経験のある、出張所の職員に当時の様子を伺います。その後、災害時における屋内トイレの使用方法についてバリアフリートイレにて実地し、意見交換会といたします。

会長挨拶:お正月を挟んであつという間に2月末です。この学びの中から、普段、災害時にどこにいるかを考えている自分に気が付きます。「自宅」「近隣にいる」「雑居ビル」「地下鉄」など、その時にどうやって逃げるのか、とか。常日頃、いつもペットボトルを持ち歩いたらとか、いろいろと持ち歩く話も出ていたが、どうしたらいいかとか。圧死も考えたり、そんなことを日々思うようになっています。四谷特別出張所担当:3月9日に、四谷中・四谷小・四谷ひろば・新宿高校の避難所対象に町会長と防災部長向けに「避難所開設キット」についてのワークショップが開催されます。四谷ひろばでは、レディス会の会長と事務局の二名が参加することになっています。

危機管理課:1月に物資が増えました。砂磁石の筆談器セット。キッチングローブ・ウェットティッシュ・ラップ(紙皿用)・ミニテント・模造紙・投光器・ゴム手袋・事務用品など。

10:05~11:00 四谷特別出張所 職員 岩手県宮古市出身

○東日本大震災を経験して 事前質問に答える形式で、追加で当日質問

当時:18歳(高校卒業後の春休み) 祖母・父母・妹(高校生)、ほか兄妹は市外。のちに、兄と避難所でボランティア活動。自宅は山側で津波の被害はなかった。土砂崩れが心配だった。

Q1 Q2. 発災時どこに居たか。発災時の自分の状況・周りの状況

A. 自宅にいた家族の安否確認を行い、庭へ避難 →余震及び防災無線による津波警報等が継続

Q3. 揺れが治まった時に、ご自身が最初に何をしたか?

A3. ライフライン(電気・ガス・水道・ネット・電話)の確認 →水道はすぐには断水にはならなかったため、たらいに貯水した。ガスはプロパンガスなので大事に使用。

Q4. 周りの人は一番に何をしたか? A4. ラジオ及び防災無線による被災状況の確認

Q5. 家族・友人・知人との連絡手段と連絡の可否

A5. 通信手段が断絶のため、一切連絡手段なし。発災と共に停電状態であったため、電源を用いた電子機器は使用できなかった。携帯電話においても混線等でほぼ機能しない状況であった。災害伝言ダイヤルの存在は認識していたが、事前に使用したこともなかったため、使用しなかった。

→揺れが収まってから、登校していた妹を迎えに高校へ向かう。(18時ころ出発)市内広範囲が停電状態であったため、街灯もなく足元も見えないような状況であった。高校教員が名簿を作成しており、簡単な本人確認を行ってからの引き渡しとなった。震災に乗じての犯罪が少なからずある為このような防犯体制も重要だと感じた。

→翌日、友人宅へ行き、市内の状況(バイト先等)を確認

→津波被害を受けた建築物が多く、居住確認はほとんどできなかった。また、津波警報が継続しているため、沿岸部へは近寄れなかった ※通信手段がないため、外出の際は時間を決めて外出し、必ず2人以上で行動をした。

Q6. 自宅の状況

A6. 電気→発災直後停電→4日後復電 ※浸水被害がなかった為、電気・水道は市内でも早期復旧
ガス→プロパンガスのため使用可 ※配達の見途が立たないため節約。

水道→発災直後貯水→その後断水→4日後復旧

灯油→自宅に備蓄があるため使用可 ※給油の見途が立たないため節約

※薪ストーブで沸かしたお湯を利用し、湯たんぽで暖をとった。灯油ストーブがあったので、ストーブの上でお湯を沸かせる。普段洗濯用に貯めてあったお風呂の水があったため、トイレに使用した。

Q7. 自身・家族の避難の有無 A7. 自宅が無事だったため、自宅で生活。

Q8. 避難することなく自宅に居られた場合一番不便だった事

A8. 季節及び地域柄、寒さ対策が一番の課題であった。自宅では、薪ストーブでお湯を沸かすことができたが、そのような設備がない場合はカセットコンロがおすすめである。

<自宅において>

Q9. 1~3日目(復電前)に必要な(欲しかった)と感じた事(物)

A9. 身内の迅速な安否確認方法、情報収集及び連絡手段、入浴。安否確認方法を相談しておくとい。

Q10. 4~7日目に必要(欲しかった)と感じた事(物)

A10. 灯油、ガソリン、被災者へ提供できる衣類等

<避難所(宮古小学校)において>

Q11. 一番不便だった事(物)、Q12. 二番目に不便だった事(物) A 自宅生活であったため回答なし

Q13. 一番大切と思った事(物)

A13. 被災後の経過日数によるが、長期化(1週間以降)した避難所においては、被災者に対しての娯楽、楽

しみ(食事、イベント等)が必要であると感じました。また、避難所で生活を送る小学生やボランティアの中高生による賑やかな雰囲気は、避難所全体に活気を与えていると思います。子供たちの前向きな姿勢や、子どもたちが率先して避難所のルールを守る姿を見て、大人も感化される部分があると思います。

Q14. 二番目に大切と思った事(物)

A14. 当たり前のことではありますが、衣食住が重要であると感じます。空腹、睡眠不足、衛生面の不備はストレスの原因となり、ストレスから体調を崩す、心に余裕がなくなり避難所生活の輪を乱す等になりがちです。支援物資が避難所に到着するまで日数がかかりますし、必ずしも十分な量が届くとは限りません。避難所の物資に頼らず、自分のための備蓄をすることが重要だと感じます。

家さえ無事なら、自宅が快適。精神的な安定が保たれる。

Q15. ご自身が他の人の為にやった事・しようと思った事

A15. 被災直後は、親族宅の泥除け作業を行い、次に友人宅(家具店自営業)の泥除け作業を手伝いました。その後、避難所(宮古小学校)のボランティアスタッフとして避難所運営の手伝いを行いました。被災者の方々のお手伝いができたのは、まず自分、家族が無事であったからだとして強く感じています。ボランティアとして被災者の方々を手伝うことは尊いことだと思いますが、まずは自助が一番大切です。

Q16. 東京に大地震が発生した時に、一番心配な事

A16. 外国人や地域交流のない世帯(単身世帯等)への対応。人口差も違うので大変だと思う。

Q17. 役立つだろうと思われる事(物)

A17. 自宅での備蓄(食糧、衣類、衛生管理)シーズンによって、備蓄は変わる。何はともあれ、自助・備蓄。

※当日の避難所となった小学校の記録がある。詳しくは読んでみてください。

※当日の質疑応答

・家具の転倒防止はしていなかったが、自宅に関しては家具の転倒等地震による目立った比嘉はなかった。

東日本大震災に関しては津波の被害が大きかった。

高層住宅ではたっていられないほど揺れるが、揺れることで倒壊を防いでいるらしいので、マンション住民の方は特に家具転倒防止を推奨する。

・過去にチリ地震等による津波被害を受けている地域であったが、沿岸部であることから津波警報が珍しくなく、過去の被害に関しても意識が風化してしまっていた。

・被災直後の物資の配送状況に関しては基本的に口コミの情報であり、被災から3日後、口コミで得た情報を基に魚菜市場に朝4時から並んだ。正しい情報であったため、7時開店時に食料品等を購入できた。自分のことで精いっぱいな人が多く、盗難や横領にも注意が必要であると感じた。

・公共交通機関が機能していなかったため、自家用車が主な移動手段であったが、自宅の車はガソリンが少なかったため、徒歩が主な移動手段であった。人口密度等を考慮すると都内(主に都心部)での車の異動は難しいと考えられる。

11:00~ トイレの貼り紙や室内トイレの設置について 実地検証

トイレについては、認識が甘かったと反省することがあり、今日は、実際に、室内トイレについて、具体案を検討していきたいと思います。

①室内トイレに二重で袋をして、使用するという考え方には無理があった。家族で共有することも難しいが、自宅と共同トイレでは使用するときの抵抗力が大きい。その為、個室の便座にヘルメットをはめ込んでみたら、丁度よいサイズだった。大きいビニールを被せて、その上にヘルメットにスーパーの袋を被せて、更にもう一枚被せる。そのヘルメットを便座に載せておくことで、個々に排泄物を包んで廃棄ができる。

②参加者が個々にヘルメットに袋を被せて、実際に座ってみる体験

11:20 茶話会 & 意見交換

○グループごとに意見交換及び報告

・外は暗いので危険である。室内トイレの充実を目指して検討をしてきたが、室内も暗いことを再認識。そのため、常日頃より、トイレや廊下等に、ひっかける金具を用意し、いざとなった時には、ランタンをひっかけて回るような準備を行っておくようにしたい。

・消防団所属メンバーが、トイレ使用にあたっての掲示を三種類・三言語で作ってくれています。

①災害時用トイレ準備中!しばらくお待ちください。②一列に並んでお待ちください。

③使用済ペーパーはこちらへ捨ててください。

パウチして、トイレ立ち上げキットを作成し、ボランティア募集も同時進行できるセットを作っておく。ヘルメットにビニール袋を被せたり、汚物の廃棄をまとめて排出したり、トイレの利用についてルールを教えたりするボランティア等をお願いできる体制作りをしていくなど。

・ビニールに排泄物をくるんで廃棄するものとして、ポリバケツを用意。このポリバケツは、大きすぎると廃棄が大変なので、いま、スタッフルームで使用している26リットルサイズの蓋つきポリバケツを検討。このサイズだと、個室のトイレに入れられるので捨てやすい。また、ペダル式で蓋が開けられ、衛生上にも良い。

11:55 閉会

具体的なことで話し合いが進めたので良かったです。机上ではなく、現実はどうしていくのかを再度検討していきたいと思いますので今後とも身近に考えていきましょう。

3月4日の消防フェスタで、昨年のように応急救護のお手伝いをしたいと思います。ご都合のつく方、ぜひ、ご協力をお願いいたします。⇒中野・信坂・木村・花上 4名ほか、先に帰った方に声掛け。

その他: 3月13日(月)18:30-20:30 地域センター11階にて NPOと地域との交流事業

※地区協議会事業 NPO活動の紹介(弱者、ペット関係)

【次回、レディス会 4月20日(木)10:00~ 多世代交流サロンにて】